

# 森林獣類による被害調査と個体数センサス法の確立

平成 15 年度～ 17 年度（国補システム）

佐野 明

ニホンザルによる農林業被害が県内各地で深刻化しており、地域によっては重大な社会問題となっている。このため、三重県では地域住民が効率的な追い払いを行なえるよう、ラジオテレメトリーを利用して、群れの接近をいち早く探知し、その情報を共有するシステムの整備を行ってきた。そこで、このシステムのより効果的な運用を図るため、恒常的に被害を与えている群れの土地利用様式を調査し、効率的な追い払いの方法を検討した。さらに、簡便で安価な侵入防止柵を試作し、効果判定のための現地試験を行った。

## 1. 農地に依存するサルの群れの土地利用様式

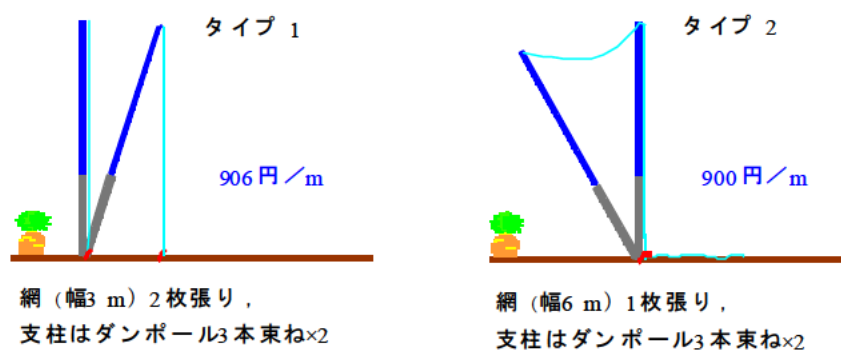
調査は三重県上野市東部、阿山郡大山田村西部および名賀郡青山町北部一帯で行われた。調査対象とした「上野B群（仮称）」は成獣・亜成獣あわせて約 40 頭からなり、三重県環境部によってその中の成獣メス 1 頭に電波発信機が装着されている。日没から約 1 時間経過後に電波受信機による方探を行ってねぐら（夜間の泊まり場）を特定し、さらに翌朝、日出直後の行動を観察した。

上野B群のねぐらは一定しておらず、調査日ごとに異なったが、それらはいずれも農地周辺の林内にあつて、最寄りの集落から電波を受信できた。群れは日出直後にねぐらに近い農地に出没して農作物に被害した。このことは夜間に 1 回方探することによって、最も無防備になりやすい早朝に被害される農地の予測ができることを意味する。地域住民自らが夜間に方探を行い、群れの位置情報を有線放送や電話連絡網を使って共有化することにより、効率的な追い払いが可能になるものと思われる。

## 2. 低コスト被害回避法の検討

漁網（ナイロン製刺し網）と農業用資材（グラスファイバー製支柱）を組み合わせた簡易猿害防止柵を 2 タイプ試作し（図－1）、被害防止効果判定試験を実施した。材料費はいずれのタイプも 900 円／m 程度であった。

タイプ 1 は南牟婁郡紀和町、タイプ 2 は名張市および南牟婁郡紀宝町の農地に設置された。2004 年 3 月末現在で、いずれの柵に対しても侵入の試みがなく、防止効果は明らかにできなかった。



図－1. 現地適応試験に供試した簡易猿害防止柵の構造と単価  
支柱の間隔を 1.6 m とした場合の材料費単価を示す。